



# 2020年6月16日 朝刊に 泌尿器科部長 安東 栄一医師が掲載されました

## 女性の泌尿器科疾患

倉敷成人病センター 安東 栄一 泌尿器科部長

## スペシャリスト

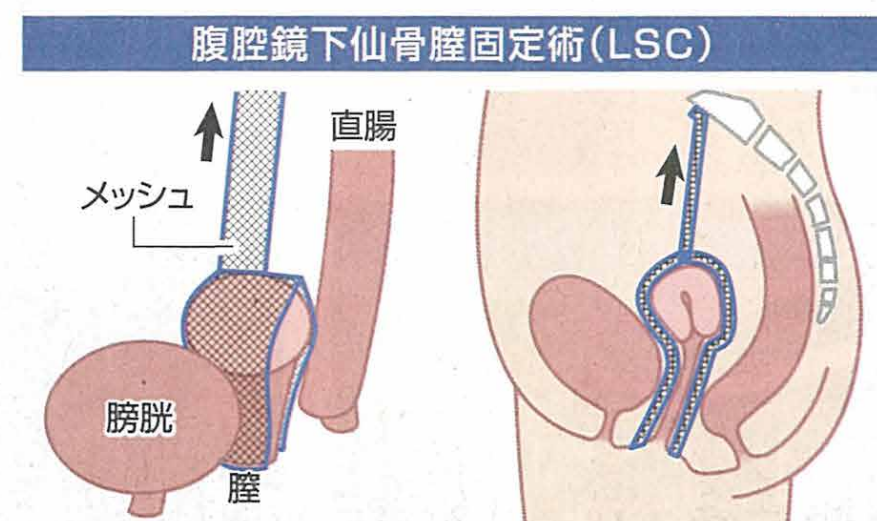


あんどう・えいいち 岡山高校、岡山大学医学部卒、同大学院修了。高知医療センター、岩国医療センター、津山中央病院、岡山赤十字病院を経て、2016年から倉敷成人病センターに勤務。日本泌尿器科学会専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本感染症学会専門医。

意を決して診察室の扉をノックする女性たちがいる。  
「あなただけじゃないんですよ。大丈夫。治ります」  
家族にも言えない不快な症状をずっと我慢し、悩んだ末にたどり着いた女性たちに、安東医師は優しく語りかける。  
女性の骨盤内にある子宮や膀胱、直腸といった臓器は、靱帯や筋肉の組織が組み合わさり、ハンモックのように支えている。この支えが不安定になり、臓器が腔に落ち込んでしまつのが「骨盤臓器脱」。排尿や排便のトラブルを伴つことも多い。  
女性の泌尿器科疾患を専門とする医師は全国的にも少ない。安東医師は看護師や理学療法士とともにチームを編成し、骨盤臓器脱や尿失禁に苦しむ女性たちの相談に乗っている。

## 「骨盤臓器脱」手術で軽快、生活の質改善

手術法は大きく進歩した。現在ではほぼ全ての手術を腹腔鏡下仙骨固定術(LSC)で行っている。腔の前後から包み込むように医療用のメッシュをあてがい、腰椎の先端にある仙骨の膜に縫い付けて固定する。腔の周りにフェンスを立て、弱った支えを補強するイメージだ。  
腹部に約2センチの傷一つと約5ミリの傷三つを開け、細い管状の鉗子やカメラなどの器具を入れて操作する。手術時間は2時間半から3時間。翌日には歩行や食事を再開し、入院期間は1週間くらい。痛みが少なく、日常生活に戻るのも早い。2015年以降、この方法で約200件の手術を行い、再手術が1件あったのみ。ほとんどの患者が軽快しているという。



術後、尿失禁が起こることがある。もともと筋肉が弱って漏れやすくなつていて、臓器が下がって尿道に圧力がかかることで止まっていたのが、手術で元の位置に戻ると顕在化する。そうした人には骨盤底筋を締めたり緩めたりする体操を教え、改善を図っている。  
「温泉に入りましたー」  
退院し、輝くような笑顔で経過を報告する女性たちに、安東医師も顔をほころばせる。グラウンドゴルフを再開したり、バス旅行に出かけたり。「この手術によって、患者さんの生活の質がものすごくよくなる」と手応えを語る。

倉敷成人病センター(倉敷市白楽町250) ☎086-422-1211

## 女性泌尿器科チーム 専門職連携しサポート



女性泌尿器科チームは定期的にカンファレンスを開き、医師と看護師、理学療法士の連携を保っている。

骨盤臓器脱や尿失禁は生活のさまざまな場面に支障をもたらす。倉敷成人病センターでは、安東医師ら専門医に加え、看護師、理学療法士、管理栄養士、病院事務の職員がチームを組んで連携し、手術だけでなく、筋力を保つ骨盤底筋体操の普及や生活相談にも積極的に取り組んでいる。

2018年6月、専門診療科として女性泌尿器科を設けている第

一東和会病院(大阪府高槻市)を見学したのがきっかけ。知り合った患者会のキャンペーンに賛同し、倉敷成人病センターでも電話相談を1週間実施すると、次々に深刻な悩みが寄せられた。

どこに相談すればよいかわからずにいる患者が多いと実感し、講演会の開催も始めた。骨盤臓器脱の原因や治療法を解説し、手術までの受診内容や入院

時の過ごし方などを具体的に紹介するのが特徴だ。

骨盤底筋体操にも力を入れている。美容院でサービスを受ける1〜2時間でも、常に尿失禁が心配になる人もおり、理学療法士の柏野三紀子さんは「困っていることが何か尋ね、それに合わせて体操を教えている。症状が改善し、やりたいことができる方も多い」と話す。

現在は新型コロナウイルス対

策で講演会を休止しているが、電話相談は休みなく受け付けている。毎週月〜金曜日の午前11時〜午後1時、専用電話(090-6844-2111)で対応しており、これまでに約210件の相談があった。担当する看護師の田淵ゆかりさんは「今まで誰にも相談できなかったが、話ができて楽になったという方が多い」と、気軽に電話するよう呼び掛けている。

# “女性の泌尿器科疾患”に関するご相談は 泌尿器科外来 までお問い合わせください



一般財団法人  
倉敷成人病センター  
Kurashiki Medical Center

記事デジタル版は  
こちらから

